

注意: 本和訳は参考としてのものです。内容の詳細に関しては原文

<http://www.rosettanet.org/rosettanet/Doc/0/6CA862VN341KH1QV5ASQEIBM31/RosettaNet+Annual+Summary6-2-03.pdf>

を参照下さります様お願い致します。

ロゼッタネットジャパン事務局

[rnpj-contact@rosettanet.gr.jp](mailto:rnj-contact@rosettanet.gr.jp)

03-5245-1079

# 年 次 報 告 書

---

## 2002/2003

## 目次

---

CEO からのメッセージ	3
RosettaNet の歴史	5
イベント年表	6
2002 年度の実績	7
各地域とパートナーのハイライト	13
進化する RosettaNet 標準	23
2003 年度に向けて	29
Board の情報	29
スタッフ情報	32

## CEOからのメッセージ

2002年は、RosettaNetにとって活発な年でした。このコンソーシアムは、著しい成長と進歩を遂げ、さまざまな分野に幅広く発展しました。特にハイテク業界の難しい経済環境の中で、RosettaNetは急成長を遂げました。



全世界のRosettaNetのボード・メンバーとパートナーは、それぞれRosettaNet標準の広範な採用と展開に向かって確実に前進しています。今年度末までに、ボード企業の実装が飛躍的に増加し、2001年に確立された接続数のおよそ2倍に達しました。これらの本番実装は、受発注管理 (Order Management) や協力的需要予測 (Collaborative Forecasting) などの既存プロセスから、ロジスティクス (Logistics) や保証管理 (Warranty Management) をサポートする新しいeビジネス・プロセス・シナリオに至るまで広い範囲に亘っています。

コミュニティの規模拡大に伴う RosettaNet の次の重要なステップは、相互運用性プログラムを駆使して、コストを削減し、実装を加速することでした。その目的を達成するために RosettaNet は、RosettaNet Ready™ という名称のコンソーシアム支援ソフトウェア準拠プログラムを立ち上げました。既に何社かは、そのバッジを獲得しておりますし、その他の企業も続々と続いています。相互運用性関連では、次の段階である B2Bi ソフトウェア相互運用性も 2002 年の重点項目でしたが、これはアジア各地で開催された相互運用性フェスティバルを通し、複数のサプライ・チェーン企業によって実演されました。さらに RosettaNet ソリューション・プロバイダー・ボードは、同じような業界団体を補う相互運用性トライアルを行い、指導してきました。又、標準準拠や相互運用性にまつわる活動をサポートし強化するために RosettaNet は、コミュニティの方が無償で使える RosettaNet 実装/統合ツール作成を支援するデベロッパー・ツール・ライブラリを作成しました。

めまぐるしく変化している B2B 環境の各業界団体を成功に導くためには、将来を見通した迅速な標準開発のためのイネーブラーの開発が重要です。RosettaNet の各ボード・メンバーは、コンソーシアムのアーキテクチャ・オフィスと共に、既存および将来の e ビジネス諸機能と商取引パートナー・ネットワーク規模に基づいた強固な B2B 標準ロードマップを概念化し、開発してきました。

このロードマップの一環として、いくつかの標準の基盤コンポーネント又は、基盤プログラム (Foundational Program) が計画され、完成しました。特に、RosettaNet Implementation Framework (RNIF) バージョン 2.0 と RosettaNet 技術辞書 (RosettaNet Technical Dictionary-RNTD) バージョン 3.0 の仕様がリリースされました。これらはそれぞれ、商取引パートナーによる RosettaNet の e ビジネス・プロセスの採用と実装の鍵を握るイネーブラーであると見なされています。

2002 年にはハイライトが多数ありましたが、中でもアジアにおいては、政府補助金が 2003 年度も通し、RosettaNet 実装プロジェクトに 5,100 万 US ドル得られることになり、強力なリーダーシップとサポートが示されました。本年度初頭にはマレーシアに、RosettaNet の関連組織が開設されました。

特に重要なのは、効率的な国際ビジネスの推進役である Uniform Code Council, Inc. (UCC) と、ハイテク業界の先駆的 e ビジネス標準コンソーシアムである RosettaNet との合併でした。この戦略的な合併は、これら 2 つの組織が携わる業界に B2B 標準の開発と採用を促進することを目的としています。これによって、それぞれのメンバ企業は、ビジネス統合チャンスを世界的に強化し拡大できることとなります。

RosettaNet は将来を見通し、世界規模での採用と実装の拡大に向けて、引き続き努力していきます。現在進行している地域拡大も、この標準の普及に不可欠な役割を担います。例えば、中国では既にボード・メンバー主導での実装が行われ、この地域でのビジネスチャンスは、相当な勢いで増加中です。また、支払い (Payment)、販売報告 (Sales Report)、ロジスティクス (Logistics)、環境物質情報 (Materials Composition) などの分野の新しい e ビジネス・プロセスは現在、概念化の段階から具体的なプログラムの段階へと進んでいます。テレコミュニケーション業界でオープンな e ビジネス標準を推進するために Telecommunications Council が新規設立されたことは、RosettaNet が新しいマーケットへと成長していることの表れです。

私達は コンソーシアムとして、これまでの発展と成功を活かし、中小企業や新しい業界に向けた実装の促進やコスト削減に引き続き取り組んでいきます。そのために RosettaNet は、RosettaNet Basics Program の参考となる実装や拡大などの実装を簡素化し、明確化するツールやリソースと共に、手頃な価格の B2Bi ソフトウェア・ソリューションを提供していきます。

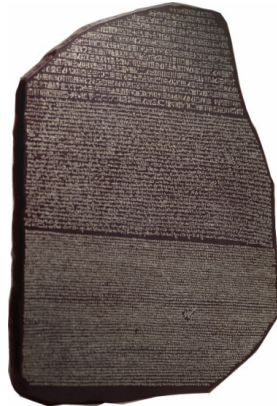


Jennifer Hamilton  
CEO, RosettaNet

## RosettaNet の歴史

RosettaNet は、IT（情報機器）、EC（電子部品）、SM（半導体製造）、TC（テレコミュニケーション）、SP（ソリューション・プロバイダー）などの各業界を代表する 500 社を超える企業から構成される非営利の民間団体であり、オープンな e ビジネス・プロセス標準の作成、実装、促進に取り組んでいます。

RosettaNet は、中核的な情報テクノロジー企業により 1998 年に設立され、その綱領とビジネス範囲は、電子部品、半導体、テレコミュニケーションなどの新しい分野へと急速に広がっています。RosettaNet は、アメリカ、ユーロップ、日本、韓国、マレーシア、フィリピン、シンガポール、台湾にそれぞれ関連組織を設立して、グローバルなコンソーシアムとしての世界的なプレゼンスを獲得しています。RosettaNet は、Uniform Code Council, Inc. (UCC) の一子会社です。



### ビジョン

世界的な e ビジネス標準におけるリーダーとなること

### ミッション

オープンなビジネス・プロセス標準を用いて、グローバルなハイテク・サプライ・チェーン間の B2B 統合に大量に採用されるようにし、在庫の削減、安価なトランザクション・コスト、製品化への時間短縮に貢献することです。

RosettaNet という名前は、古代のロゼッタ (Rosetta) ストーンからきています。ロゼッタ・ストーンは、1799 年にエジプトの Rosette の町付近で発見された黒い玄武岩の石板です。この神秘的な石には、紀元前 196 年に 3 つの言語で同じメッセージが刻まれています。この遺物発見により学者は、ギリシャ語のメッセージを使って 2 つの形式のエジプト語の記述を翻訳し、象形文字を解読できるようになりました。

名前に用いられている通り RosettaNet は、言語障壁を克服して歴史に名を残すでしょう。RosettaNet は、ビジネス情報を電子的に共有するための共通言語あるいは“lingua franca (共通語)”と標準化されたプロセスを確立することにより、商取引パートナー間に B2B 通信ラインを開設します。RosettaNet は、グローバルな商取引ネットワークの発展に不可欠な e ビジネス標準の開発や展開において、各企業がリーダーシップを発揮し、影響を及ぼし、協調できるように努めます。

## イベント年表

### 1998

- »RosettaNet グローバル・コンソーシアム設立
- »RosettaNet Americas 開設
- »IT ボード (Information Technology Board) 設置

### 1999

- »ECボード (Electronic Components Board) 設立
- »RosettaNet Europe 開設

### 2000

- »最初のマイルストーン達成 (16 PIP 本番開始)
- »RosettaNet Japan 開設
- »RosettaNet Taiwan 開設
- »SMボード (Semiconductor Manufacturing Board) 設置
- »RosettaNet Singapore 開設

### 2001

- »RosettaNet Korea 開設
- »SPボード (Solution Provider Board) 設置
- »実装で1000接続を突破
- »標準マイルストーン (38 PIP 本番開始)

### 2002

- »RosettaNet Malaysia 開設
- »Uniform Code Councilと合併
- »実装で2000接続を突破
- »標準マイルストーン (53 PIP 本番開始)
- »RNIF (version 2.0)をリリース

### 2003

- » RosettaNet Philippines 開設
- » TC委員会 (Telecommunications Council) 開設
- » RNTD (version 3.0) リリース

## 2002 年度の業績

2002 年度は、RosettaNet コンソーシアムとメンバー・コミュニティにとって注目すべき一年でした。世界規模での RosettaNet 標準の採用と、その本番実装が成長と拡大し続け、また、いくつかの要となるマイルストーン・プログラムのサポートにより、既存の標準が幅広く採用され、課金、ロジスティクス、保証プロセスなどの新しい分野にも焦点が集まりました。

### ハイテク業界による本番実装の促進

現在、RosettaNet の各ボード・メンバーは、それぞれの本番実装を確実に実施トレースすることを約束し、その経緯を年間を通してレポートしています。2002 年度には、ボード・メンバーと共に RosettaNet 本番実装に本格的に携わった商取引パートナーの総数は 207%の伸び率を示しました。中でも、商取引パートナー数は 1 社当り、6 社から 16 社へと著しい成長が見られました。

同様にパートナー・インタフェース・プロセス (Partner Interface Processes® (PIPs®))の種類では、ほぼ倍増し、1 企業平均で 10 PIP になりました。控え目な追跡/測定プロセスによっても、1 企業当りのパートナー/PIP 接続数が平均 53 で、各企業当りのパートナー/PIP 接続数がおおよそ 270%増加したことを示しています。

この“成績表 (scorecard)”は、選ばれたボード・メンバー企業の代表的なサンプリングから得られたものなので、このコミュニティ内での成功事例の相対的な測定値です。この計算に用いられた実装数は、ボード・メンバーからのレポートに基づいたもので、これには、パートナーやその他のメンバー外企業による接続数は含まれていません。これらを加えるとその数値はずっと大きくなるものと推測されます。

本番実装の年間成長率

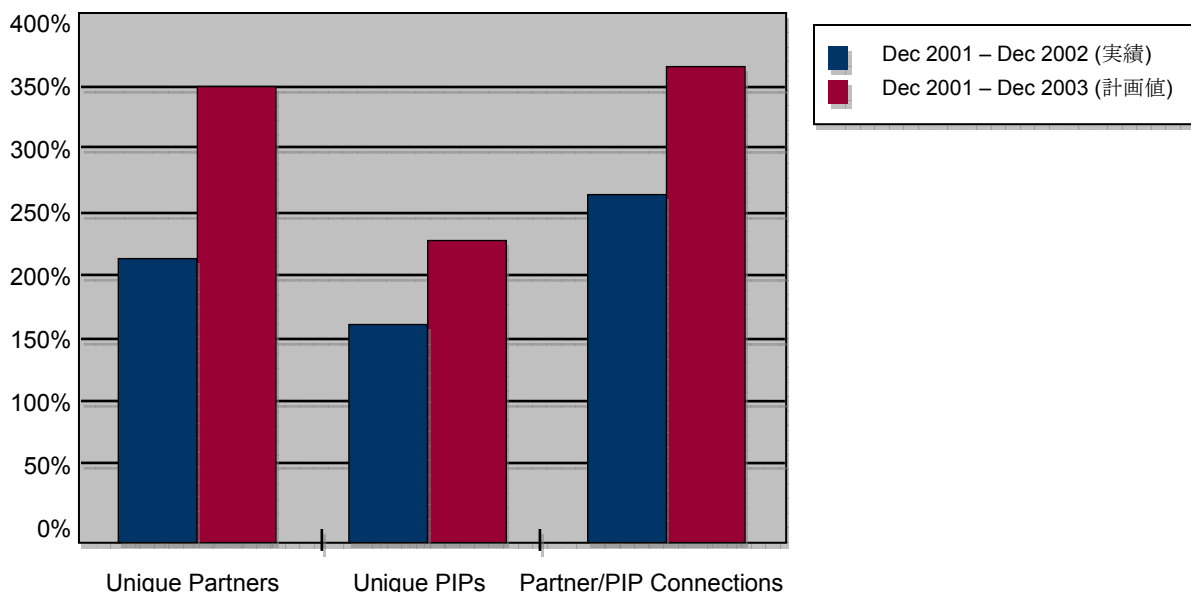


図 1.0

RosettaNet ボード企業における実装数の増加率

### e ビジネス・プログラム団体の拡大

RosettaNet コンソーシアムは、新しい商取引パートナーやビジネス・プロセス分野に拡大し続けており、実装例では、他の標準団体を大きくリードしています。これらの本番実装はマイルストーン・プログラムとも呼ばれ、情報機器、電子部品、半導体製造、ソリューション・プロバイダーの各分野の主要な会社により達成されました。これらは、ハイテク・サプライ・チェーン内の要となる戦略的ビジネス・プロセスに意欲的で業界別に実装目標が設定された 2002 年度マイルストーン・プログラムの結果でもありました。

これらのプログラムは、業界内の推進力を統一する役割を果たしました。つまり、重要なサプライ・チェーンの課題を共同で解決するための推進源となり、ハイテク商取引パートナーとソリューション・プロバイダーのコミュニティ内の優先度を調整し、PIP の開発と本番実装を促進しました。この劇的な達成は、世界規模での商取引ネットワーク間の XML や e ビジネスの標準化に関連して、業界での急成長を示しています。

RosettaNet の e ビジネス・プロセス・シナリオには、設計、需要の掘り起し、需要予測、受発注、製造、ロジスティクス、支払の各分野でのプロセスが要約されています。RosettaNet の初期の本番実装の多くは、需要予測やデザイン・ウィン (Design Win) などの受発注管理プロセスの自動化に集中していました。そして、受発注管理に関連した他の分野や仕掛品管理、サード・パーティー・ロジスティクス管理、支払等、受発注管理の直接出力となる分野に拡大していきました。(図 2.0)

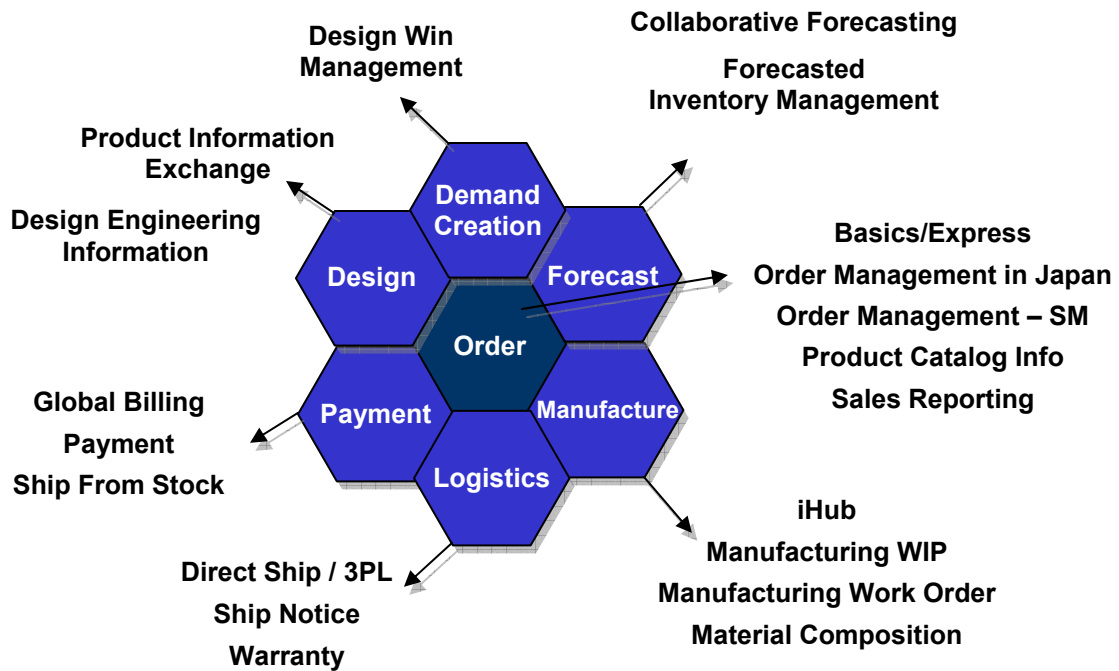


図 2.0

RosettaNet の e ビジネス・プロセス・シナリオと  
マイルストーン・プログラム

RosettaNet のボード・メンバーとパートナーは、RosettaNet 標準を作成して使うことをコミットしています。そのため、本番実装のプロジェクトとプログラムあるいはマイルストーン・プログラムは、このコンソーシアム全体のミッションの重要な成功要因です。現在 18 件のマイルストーン・プログラムが完了しています。さらに、2003 年度には、7 件のマイルストーン・プログラムが完了する予定です。

2002 年度のマイルストーン・プログラムには、主要な半導体プロセスと電子部品プロセスが複数含まれていました。SM(半導体製造)ボードでは、需要予測から支払いまでのプロセスに注目し、特に受発注管理、仕掛品管理 (Work-in-Process: WIP)、在庫管理、作業指図(Work Order)の 4 分野の 4 つのプログラムの完成に注力しました。これらのプログラムには、全部で 38 社の半導体商取引パートナーが携わり、11 件の PIP が使われ、合計で 84 件の接続が行われました。

EC（電子部品）ボードでは、全部で 166 社にのぼる多数の商取引パートナーと受発注管理を拡張することに集中し、また製品ライフサイクルの設計段階に挑戦し、設計技術情報（Design Engineering Information）e ビジネス・シナリオも手がけています。又、“在庫から出荷”プログラム（Ship from Stock Program）の第2段階も完了しました。

2003 年度に完成が予定されているプログラムもいくつかあり、協同需要予測(Collaborative forecasting)などは、商取引パートナーとの PIP 拡張の代表例です。また中には、保証管理（Warranty Management）や直接出荷（Direct Ship/3PL）などの新しい分野へ展開したプログラムもあります。

Milestone Program	Board Sponsor	Total Unique Partners	Total Unique PIPs	Total Connections	Completion Date
Order Management(SM)	Motorola	17+	4	40+	06.2002
Mfg. Work in Process (2)	TSMC	7	1	8	09.2002
Forecasted Inventory Mgmt.	JSR & NEC	9	4	26	10.2002
Mfg. Work Order	TSMC	5	2	10	10.2002
Order Mgmt. in Japan - Ext.	Sony	166	16	791	12.2002
Design Engineering Info	Sony	14	1	22	12.2002
Ship from Stock(2)	Intel	5	4	16	12.2002
Collaborative Forecasting	ST & TI	6	3	26	03.2003
Direct Ship / 3PL	Intel	19	8	74	03.2003
Ship Notice	Amkor	4	1	6	03.2003
Warranty	HP	5	3	20	03.2003
Design Win	Motorola	10	4	102	06.2003
Global Billing	Intel	11	2	20	06.2003
Product Catalog Info	Intel	6	1	10	06.2003

表 1  
2002/2003 Milestone Programs

## RosettaNet と Uniform Code Council との合併

業界ベースの標準化組織として発展し続けている RosettaNet は、2002 年度にさらに明確な意味を持ちました。RosettaNet コミュニティは、期待されていた Uniform Code Council (UCC) との合併により、2003 年度以降はさらにチャンスが拡大します。RosettaNet と UCC の合併の主要ゴールは、XML 標準や台頭している新しいサービスを関連業界への実装作業を通して B2B 統合を促進することです。この 2 つの組織は、共通のアーキテクチャ環境を形成することにより、複数の業界をサポートする B2B 標準のコラボレーションを推進していきます。これにより、ユーザー・コミュニティ間の実装速度と量が増大し、隣接した業界も世界規模で取り込めます。

RosettaNet と UCC は、1998 年より既存のプロジェクトで協同作業を開始し、標準採用プロセスへの統一的なアプローチを推進してきました。この合併により、サプライ・チェーン相互運用性など、様々な標準団体周辺にビジネス・チャンスが拡大します。これらは、旺盛なソリューション・プロバイダー製品によってサポートされた高品質ビジネス・プロセスの普及によって推進されます。

UCC は現在、小売りと食糧雑貨品を中心に 23 業界で活動しています。RosettaNet はハイテク産業部門、特に電子部品、情報機器、半導体製造の各分野の会社に重点を置いています。これら 2 つの組織の合併により、それぞれの組織がサービスしていた各業界における戦略的革新とリーダーシップが促進されます。その結果、グローバルな商取引ネットワーク間のサプライ・チェーンが急速に統合されます。

*UCC と RosettaNet の提携は、最も広範な業界 “ユーザー” コミュニティへの標準実装を簡素化し高速化するために、共同作業している両標準開発組織の成熟度を示すものです。UCC と RosettaNet は、混乱を減らし、業界ニーズに迅速に応える、簡素化された標準団体へのマーケット需要に応えます。*

--META グループ、e ビジネス戦略部門副社長、Hollis Bischoff--

## 大学との連携による RosettaNet 研究/教育の推進

RosettaNet は過去 2~3 年間、世界中のいくつかの主要大学やテクノロジー研究機関と緊密に活動してきました。スタンフォード大学では、Hau Lee 博士の下で、RosettaNet クラスタ 3 とクラスタ 4 (受発注管理と在庫管理) の 2 つの ROI 計算モデルが作成されました。これらのモデル作成の主な目的は、企業が RosettaNet 標準を実装するときにそれぞれの投資収益率 (Return On Investment: ROI) を見積ることができるようにすることです。さらに、STMicroelectronics における協同需要予測の実装と、その結果として得られる利益に関するケース・スタディも作成されました。

イリノイ大学では、Michael Shaw 博士の指導により、ある半導体会社グループに焦点を当てた研究論文など、さまざまな RosettaNet 中心の活動に参加しています。この研究では、RosettaNet 標準採用への各企業のアプローチ方法に焦点が当てられ、採用による利益も見積られています。また Shaw 博士は、RosettaNet を扱った『E-Business Management』という題の書籍の編者でもあります。Shaw 博士と彼の学生数名は現在、台湾の III (Institute for Information Industry) と緊密に連携しながら、半導体各社とそれぞれの RosettaNet 実装について、さらに詳しく研究しています。

上海にある Fudan 大学では、RosettaNet コンテンツを標準カリキュラムへ盛り込み、RosettaNet などのオープンな業界標準の利点について学生に教え始めました。この大学は、中国の商取引パートナー・コミュニティ内の教育向けに RosettaNet についてのケース・スタディの文書化ならびに白書や書籍の翻訳に貢献しています。

カリフォルニア大学バークレー校の Haas スクール・オブ・ビジネスでは、コンソーシアムの拡張に伴うコミュニティ・モデルについて RosettaNet と緊密に活動しています。

その他の主な RosettaNet 活動では、コーネル大学、Fudan 大学、イリノイ大学、スタンフォード大学の経営学大学院などでの客員講義などがあります。また、アリゾナ州立大学、インド科学研究所、ヘルシンキ技術大学には、RosettaNet 標準についてのカリキュラムがあります。サン・ディエゴ大学では、2002 年にパートナーおよび非会員向けに“RosettaNet Low-Cost Solution”フォーラムが開催されました。

## 各地域とパートナーのハイライト

*Rosettanet* のグローバルなステータスとその地位は、どこからでも接続できるインターネットによって広がり続けています。このコンソーシアムの500を超える会員のおよそ63%は、アジアを拠点としています。残りの37%は、アメリカとヨーロッパです。アメリカ、ヨーロッパ、韓国、日本、マレーシア、フィリピン、シンガポール、台湾にそれぞれ *RosettaNet* の関連組織があります。

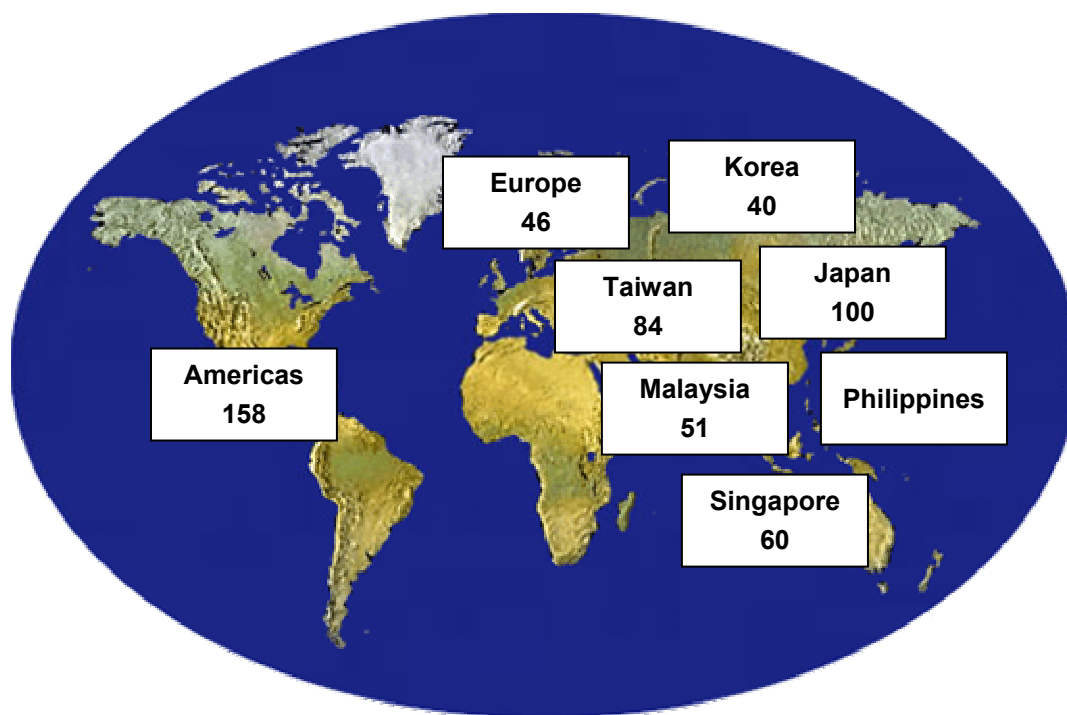


図 3.0  
RosettaNet Worldwide 拠点

## アメリカ

RosettaNet ボード・メンバーの中には、アメリカ合州国をベースとしている多国籍企業が数社あります。RosettaNet パートナー全体から見ると、158 社がアメリカの地域組織に加盟しています。その中の一つの企業である Intel は、ある声明を発表しました。その声明は、多数のボード・メンバー企業の動向を受けて、電子データ交換（Electronic Data Interchange: EDI）ビジネス・プロセスから、将来の e ビジネス戦略の要となるイネーブラーとして、XML を一特に RosettaNet を一採用する決定でした。

Intel はこれまでに、世界 17 ヶ国で商取引を行い、商取引パートナーの 89 社との間で RosettaNet での実装を済ませ、2006 年までには EDI を終了する計画です。

Intel RosettaNet Trading Partner Locations

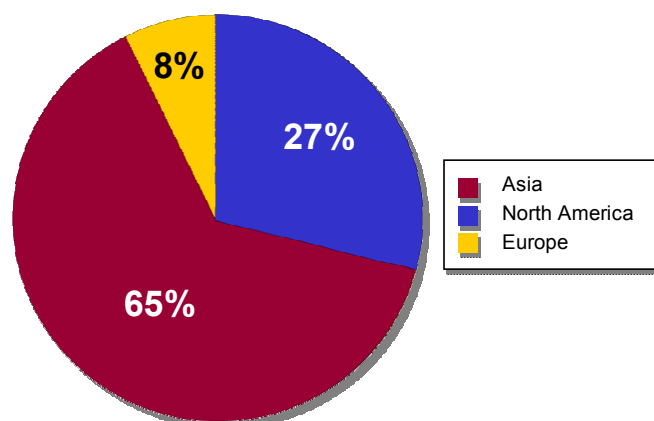


図 4.0

Intel の RosettaNet 商取引・パートナーの拠点

Intel が 2002 年度に、RosettaNet の e ビジネス・テクノロジー標準を使って処理した売上とサプライヤ仕入は、10 パーセントを超えました。同社は本年度、30 億 US ドルを超える顧客注文、および 20 億 US ドルを超えるサプライヤ仕入を、RosettaNet で処理しました。RosettaNet で処理されたビジネス総額は、この 1 年間でおよそ 7 倍に増加しました。

B2B 統合によって生産性、スループット、顧客とサプライヤの満足度が向上し、Intel は経営効率をさらに高めることができました。これによって Intel とその顧客は、情報へのリアルタイム・アクセスや、より効率的なサプライ・チェーンの協業が得られ、製品化までの時間をさらに短縮できるようになりました。

## アジア

アジア地域は、RosettaNet 標準に対して常に強力なサポートを実証してきました。実装の統計と共に注目すべき事柄として、アジアを拠点とする複数の政府機関が 2003 年度も通し、5,100US ドルを超える実装援助を約束しています。

## 中国

中国での RosettaNet 活動は、複数のボード・メンバー主導による実装で成功しています。その一例として Cisco のケースが挙げられます。Cisco は、中国における二次ディストリビュータである Xiao Tong と共に、RosettaNet 標準を組み込んだ統合型 e コマース・ソリューションを配備しました。Xiao Tong では、実装された主要 PIP により、注文状況、価格付け、製品情報へのリアルタイム・アップデートが円滑になり、これによって二重注文が無くなりました。両社は現在、注文工程の自動化の改善、冗長性の排除、新機能の早期統合を通し、コスト削減に取り組んでいます。

*e コマースと B2B 統合によって、将来の経営方法が変わります。また、グローバルな経済において企業が生き残るためには、この統合がますます重要になります。私達は、この革新的な標準ベースのソリューションを中国で最初に配備できたことを大変うれしく思っています。また、中国の弊社のお客様と共に B2B-XML 統合をさらに拡張していくことを約束します。Cisco 社との共同作業によって、弊社の成長に対応できるスケーラブルな基礎を作成できました。*

*-- Xiao Tong のエグゼクティブ・ディレクタ、Yan Li 氏 --*

2003 年には、Applied Materials China と Semiconductor Manufacturing International Corporation (SMIC) により、RosettaNet の e ビジネス標準を使った本番実装の目標が達成されました。両社は PIP 3A4 の実装に成功し、注文処理が自動化され、両パートナー間でのリアルタイム・データ交換が実現しました。この成功は、Applied Materials と SMIC がサプライ・チェーン統合をさらに進め、処理コストをさらに削減できることを示唆しています。

中国におけるその他の活動としては、Intel 主催による相互運用性フェスティバルがあります。このイベントには、Asustek、Compeq、Evertch、Foxcon、Founder、Legend、Nokia、WPI を含め 21 社の商取引パートナーが参加しました。

## 日本

Sony による RosettaNet 標準へのサポートは、2002 年度中に 90 社を上回るサプライヤと接続して、VMI に集結するという Sony の積極的な目標設定に表れています。Sony は、初期的には量産ラインでの資材調達に、また長期に亘ってビジネスのあらゆる側面において、EDI を RosettaNet に置き換えるという意向を表明しています。

Sony は、RosettaNet 標準を日本国内で導入推進する他、富士通、Intel、NEC、Nokia、大塚商会と共に、サプライ・チェーン・パートナー内での PIP を使ったソフトウェアの実装を試験する目的で、“Interoperability Festival” を多数開催しました。これらの IOF 参加は広範囲に亘り、その結果日本での RosettaNet 標準の採用と実装が著しく促進されました。

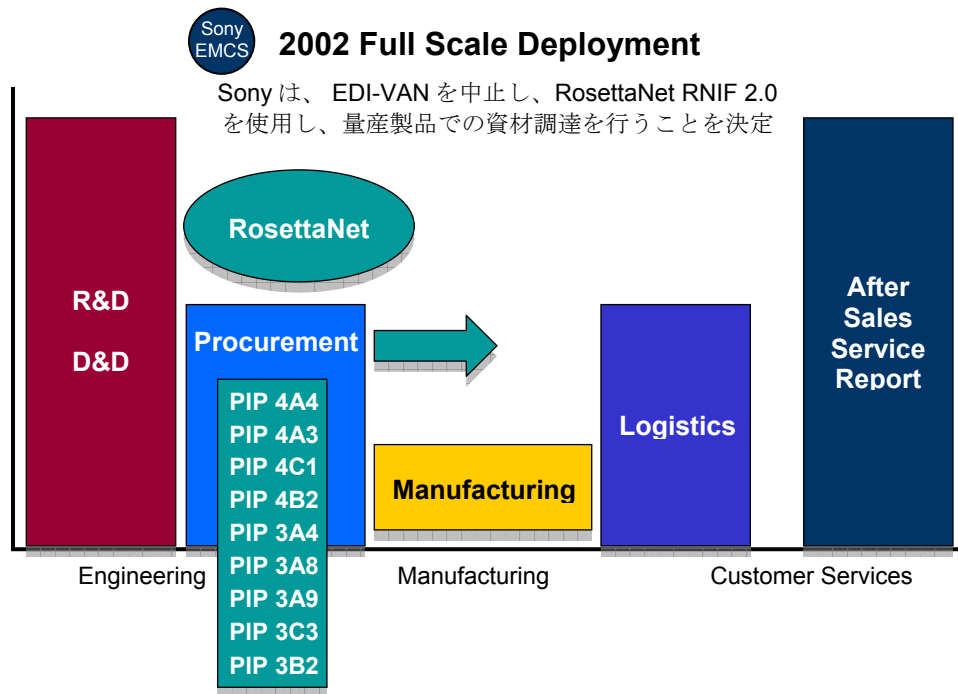


図 5.0  
Sony の RosettaNet 戦略

マイルストーン・プログラムの 1 つに “Order Management in Japan - Extended” があります。このプログラムでは、2001 度の “Order Management in Japan” マイルストーン・プログラムと比べると、さらに多くの商取引パートナーとの接続と新規の受発注管理関連 PIP の採用に重点が置かれました。この結果、新規商取引パートナー 166 社との接続と、16 社のユニークな PIP を使用して大成功を収めました。このプログラムは、富士通、日立、Intel、NEC、NTT、沖、Sony、および東芝が支援しました。

Order Management – Japan Milestone			Q1/ 2	Jul	Aug	Sep	Oct	Nov	Dec	
Actual Number of Newly Connected Trading Partners			<b>166</b>	49	4	7	9	20	17	60
Total Number of Newly Increased PIP® Connections			<b>791</b>	101	14	20	63	117	101	375
<b>3A</b>	3A2	Request Price and Availability	<b>1</b>	0	1	0	0	0	0	0
	3A4	Request Purchase Order	<b>147</b>	28	2	4	14	20	14	65
	3A6	Distribute Order Status	<b>1</b>	0	1	0	0	0	0	0
	3A7	Notify of Purchase Order Update	<b>3</b>	2	1	0	0	0	0	0
	3A8	Request Purchase Order Change	<b>127</b>	12	2	3	13	18	14	65
	3A9	Request Purchase Order Cancellation	<b>111</b>	3	1	1	11	17	14	64
<b>3B</b>	3B2	Notify of Advance Shipment	<b>12</b>	3	0	0	1	2	3	3
	3B3	Distribute Shipment Status	<b>1</b>	0	1	0	0	0	0	0
<b>3C</b>	3C3	Notify of Invoice	<b>104</b>	0	1	1	9	17	15	61
	3C6	Notify of Remittance Advice	<b>2</b>	1	0	0	0	1	0	0
<b>4A</b>	4A1	Notify of Strategic Forecast	<b>94</b>	0	1	1	8	13	11	60
	4A3	Notify of Threshold Release Forecast	<b>37</b>	16	1	4	1	6	6	3
	4A4	Notify of Planning Release Forecast	<b>109</b>	17	1	2	6	15	16	52
	4A5	Notify of Forecast Reply	<b>8</b>	5	0	3	0	0	0	0
<b>4B</b>	4B2	Notify of Shipment Receipt	<b>6</b>	0	0	0	0	3	3	0
<b>4C</b>	4C1	Distribute Inventory Report	<b>28</b>	14	1	1	0	5	5	2

表 2  
RosettaNet Order Management (Japan) - Extended

長野に本社を置く新光電気工業株式会社は、半導体製造業界向けに集積回路アセンブリとコンポーネントを提供しています。新光電気工業の RosettaNet 実装では、本番実装の第一段階の最も顕著なメリットとして、アメリカと日本間のファクシミリ費用の削減が挙げられます。XML ベースの RosettaNet 標準を実装することによって、インターネットを低コストの送信媒体として使え、従来のウェブ・ベース・ツールよりはるかに大量のトランザクション処理と高機能なスケーラビリティに対応できます。新光電気工業では、手作業による作業工数を 50% 削減でき、同時に 100%エラーなしのプロセス環境を確立できました。さらに、受発注管理処理時間が 24 時間から 1 時間未満に短縮されました。表 3 に、需要予測から支払いまでの全調達プロセスから得られる予想利益を示します。これは、2003～2005 年度の間実施される予定です。

PIP	PIP 実装による利点	ビジネス・プロセス ・リエンジニアリング	全体的利益
4C1	<ul style="list-style-type: none"> <li>- 手作業によるデータ・ダウンロードとデータ検証プロセスの排除</li> <li>- エラー減少</li> <li>- 在庫可視性の向上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>- 在庫データをバックエンド・システムへリンクするプロセスの自動化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>- 作業工数が 86%減少 (新光電気工業)</li> <li>- 在庫日数 (Days Of Inventory:DOI) と突き合わせプロセスの削減</li> <li>- 顧客の上方/下方要求を満たす自由度が向上</li> </ul>
4A2 4A3 4A5	<ul style="list-style-type: none"> <li>- 手作業によるデータ検証の排除</li> <li>- 電子メール/スプレッドシート通信の排除</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>- データ審査なしに需要予測データの使用</li> <li>- 需要予測プロセスの自動化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>- 作業工数が 88%減少 (新光電気工業)</li> <li>- リアルタイム需要予測により応答が迅速になり、需要予測関連のリード・タイムが 47% 短縮</li> </ul>
3C3 3C4 3C6	<ul style="list-style-type: none"> <li>- インボイス書類の排除とメール費用の節約</li> <li>- 手作業プロセスの排除</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>- 作業工数が 65%減少 (新光電気工業)</li> </ul>

表 3  
新光電気工業の RosettaNet 実装例

## 韓国

韓国で RosettaNet をサポートしている主な政府機関として、Ministry of Commerce, Industry and Energy (MOCIE) があります。同省はこの公的支援の他、『Emerging RosettaNet: Global e-Business Standardization』という題の書籍出版資金を援助しました。また、RosettaNet 標準ベースの e ハブ・プラットフォーム・テクノロジーとゲートウェイ・サーバーの開発に 40 万 US ドルを割り当て、中小企業による RosettaNet 実装を助成しています。

## マレーシア

RosettaNet は、首相主導の National Information Technology Council (NITC) 下での国家的団体です。現地企業に対する RosettaNet 実装を援助するためにマレーシア政府は、RosettaNet 助成金として 140 万 US ドルを割り当てました。マレーシアの電子工業界センターであるペナン州知事および国際通商産業省の中小企業開発協力部、ペナン開発会社、National IT Council 等の政府機関も積極的に関与しています。さらに、マレーシアには、グローバル・ベースでの RosettaNet 標準開発に関する専門技術の XML エンジニアリング・センターがあります。

アメリカに本社を置く大手コンピュータ・メーカ Dell 社は、2003 年の初めにサプライヤー向けの RosettaNet イネーブル型トレード・エンジン・プラットフォームとソリューションの開発及びマーケティングのために、Telekom Malaysia との間でジョイント・ベンチャー契約を締結しました。Dell Computer の会長兼最高経営責任者である Michael Dell 氏は、顧客に提供する価値を増しながら Dell のサプライ・チェーン効率を上げるには、トレード・エンジンが必要であると主張しています。

## フィリピン

電子機器の市場は、フィリピン経済の主要な推進源として認知され、この国の総輸出の 70 パーセント強を占めています。RosettaNet フィリピンの設立綱領は、RosettaNet のインターネット・ベース・ビジネス標準のグローバルな実装を推進し、さらにこの国のグローバルな競争力を強化することです。この新しい組織の設立メンバーには、SEIPI (Semiconductor and Electronics Industries in the Philippines, Inc.)、および Intel、Motorola、Texas Instruments 等の先進企業、さらに Microsoft、Ayala Port、Bayantrade 等も名を連ねています。

### シンガポール

Infocomm Development Authority (IDA) は、RosettaNet 標準専用のオンライン教育センターである eLearning Center の開発資金として、24 万 US ドルを承認しました。又 IDA は、e ビジネスや電子商取引の採用を促進するため、RosettaNet 実装資金として、1,700 万 US ドルを用意し、“eBusiness Industry Development Scheme and Fast Track Program” というインセンティブ・プログラムを管理しています。

### 台湾

台湾の Ministry of Economic Affairs (MOEA) は、e ビジネス実装を促進する複数の計画を支援しています。MOEA は 2002 年度には、Plan-D に 2,000 万 US ドルの資金を拠出しました。この計画には、荷送人、3PL、ロジスティクス・サービス・プロバイダーが関与し、それぞれに、ハイテク・サプライ・チェーン内のロジスティクス・セグメント自動化という共通目標があります。Institute for Information Industry (III) は、Plan-B というもう 1 つの MOEA プログラムの成果を使って、Plan-D (Track and Trace and VMI) 向けに共通のロジスティクス・ビジネス・シナリオを特定/指定する SLIM (Shipping Logistics for IT Manufacturers) という名称の基盤プログラムを形成しました。この計画には、HP、Tatung、ASUS、Mitac、CMC、Arima、FIC、Inventec、Sampotech、その他 20 社を超えるロジスティクス・サービス・プロバイダーや 3PL 企業が参画しました。このプログラム内では、この商取引パートナー・ネットワークに RosettaNet PIP 3B2-4、3B12-13、3B18、4A2-5、4B2、4C1 が、使われています。

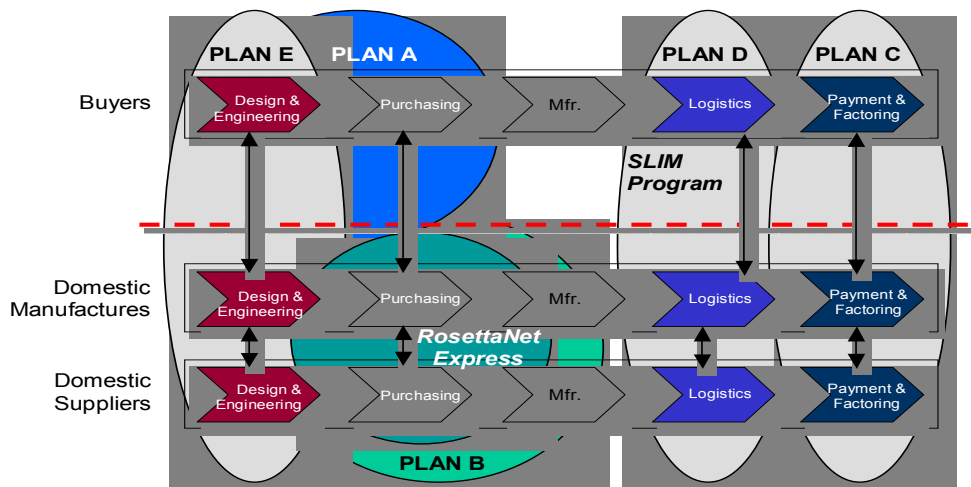


表 6.0  
MOEA E-Business ロードマップ  
(出展: MOEA)

### ヨーロッパ

STMicroelectronics (ST) は、商取引パートナーとの e ビジネス構築に向けて、スピードと敏捷性を強化する標準プロセスを実装しました。ST は協同需要予測をいち早く導入した先駆者として、RosettaNet を使った真の協同需要予測に同社とそのパートナーを一層近づける主要なプロジェクトを担ってきました。

ST が採用した RosettaNet 標準は、顧客や主要パートナーとの協同モデルや戦略的關係に基づいた広範囲の e ビジネス戦略の一部です。ST は、この e ビジネス範例内で RosettaNet の PIP を使うことにより、協同需要予測と在庫管理プロセスを、商取引パートナーの ERP システムに統合することができました。

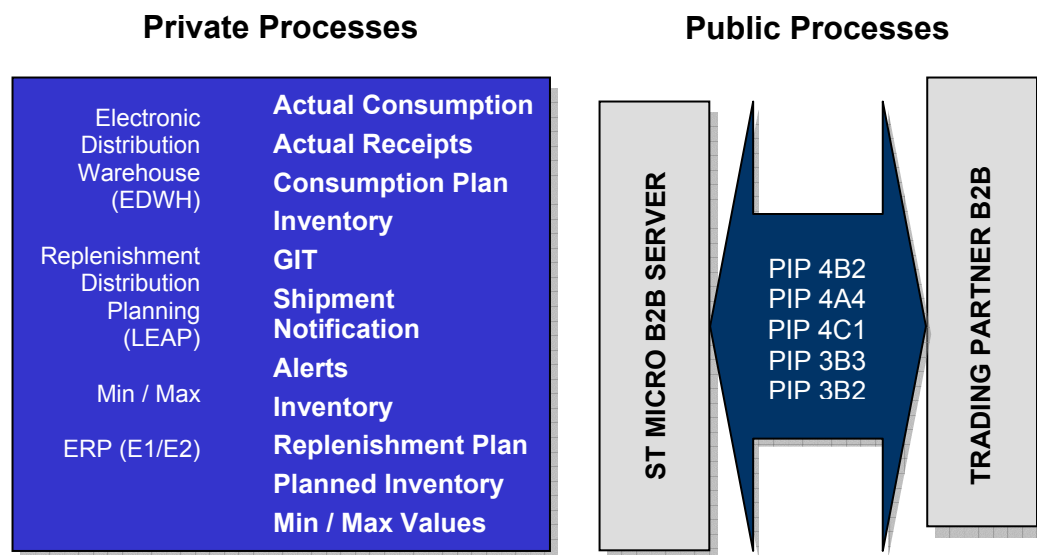


図 7.0

STMicroelectronic の RosettaNet 実装例

私達の最優先事項は、パートナーとの間で需要と供給を一致させるための双方向自動交換を通じた協同需要予測と在庫管理にありました。ST が開発した自動補充計画と VMI モデルを処理するために、PIP4B2 (出荷受領の通知) と PIP4C1 (在庫レポートの配信) の 2 つの PIP を実装しました。

-- Jean-Claude Monney, IT Vice President and Director of Marketing Systems and E-Business, STMicroelectronics --

Nokia には、RosettaNet を使って、外部プロセス・インタフェースをすべて自動化し統合するビジョンがあります。1 時間当たり 1,000 万強の部品を処理するという課題に対して、Nokia は、RosettaNet を使ってデマンド・サプライ・ネットワークをエンド・ツー・エンドで統合するという目標を設定しました。効率、スピード、可視性はその原動力でした。Nokia チームは、RosettaNet を Nokia とそのサプライヤ間をシステム・ツー・システムとして統合する主要なイネーブラーと見なしました。RosettaNet を実装するために、サプライヤ、請負業者、ロジスティクス、顧客を始め、世界中のビジネス・グループが関与しました。

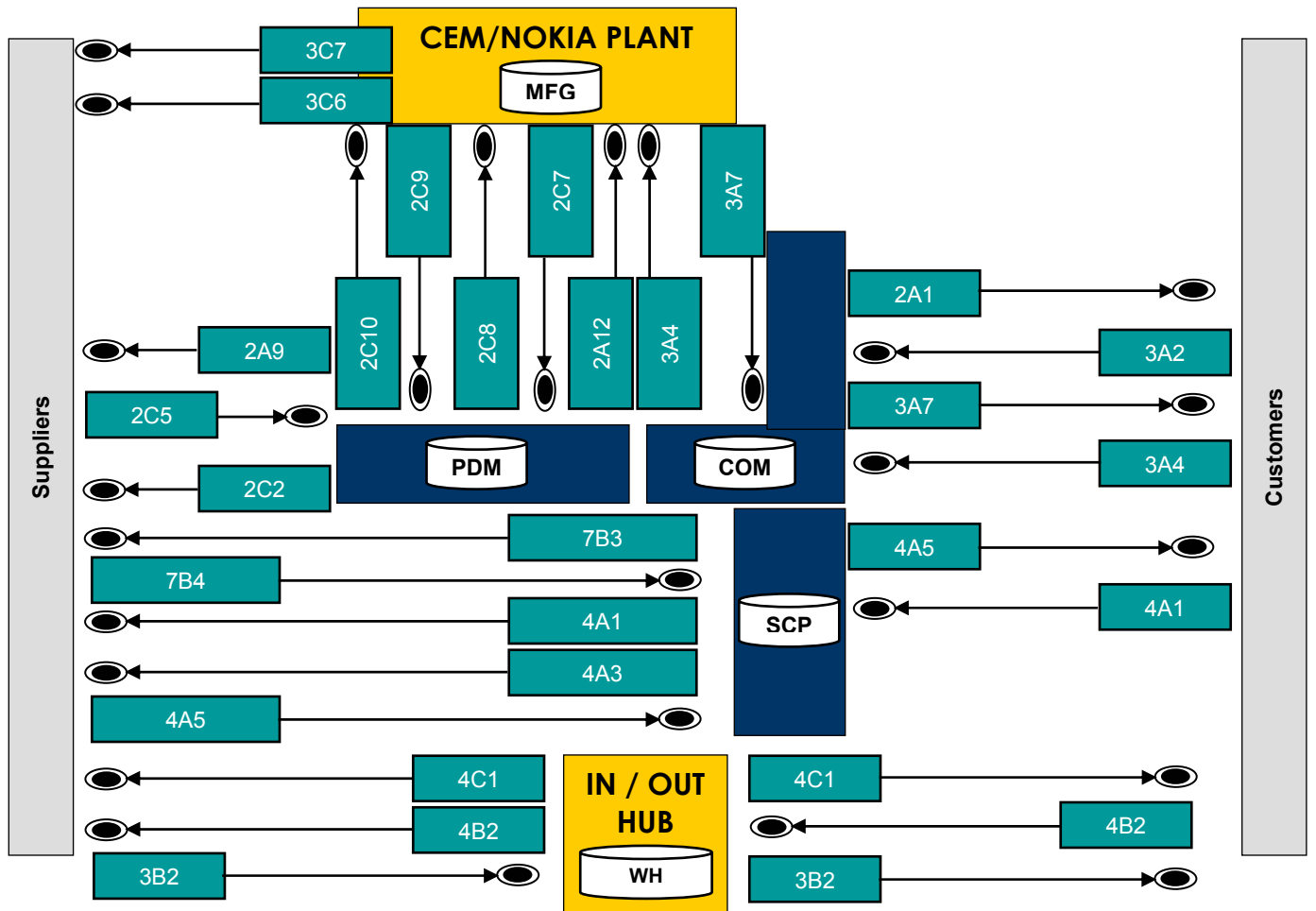


図 8.0  
Nokia の RosettaNet 実装の最終状態図

## 進化する RosettaNet 標準

急変している **B2B** 環境内でハイテク・サプライ・チェーンを成功に導くには、迅速で可視性のある標準開発を推進するイネーブラーの開発が不可欠です。このダイナミックな市場と新規台頭するテクノロジーに合わせるために **RosettaNet** の各ボード・メンバーは、**e** ビジネスの諸機能と企業の平均的な商取引パートナー・ネットワーク規模に基づいて、**B2B** 戦略的ロードマップを概念化し開発してきました。

**Infrastructure** は、転送/パッケージング/ルーティング仕様、トランザクション仕様、技術辞書構造仕様、ビジネス辞書仕様の開発に特徴づけられます。インフラ・コンポーネントを検証するために、簡素化されたメッセージ仕様が開発されています。

**Transaction** は、B2B パートナー間でドキュメントを転送するためのシンプルな PIP<sup>®</sup>メッセージ (Payload) 仕様と定義されます。ビジネス・コンテキスト・アライメントには、レガシーな情報チャネルと各社固有のキー構造が使われます。

**Visibility** の諸機能は、グローバル・レジストリで支援されているグローバル・キー構造を扱う柔軟性に富んだパブリッシュ・サブスクライブやダイナミック・リアルタイム・ビジネス・コンテキスト・アライメントの各方式が処理対象です。

**Collaboration** は、B2B 可視性の諸機能を活用するシェアード・ビジネス・オブジェクトを共有し、コラボレートする機能です。

RosettaNet のボードは、それぞれの企業が、RosettaNet e ビジネス計画内で実装ゴールとして認識されている商取引コミュニティ規模と e ビジネス諸機能に対する意見を集計しました。(次頁の図 9.0 の円弧部分を参照してください)

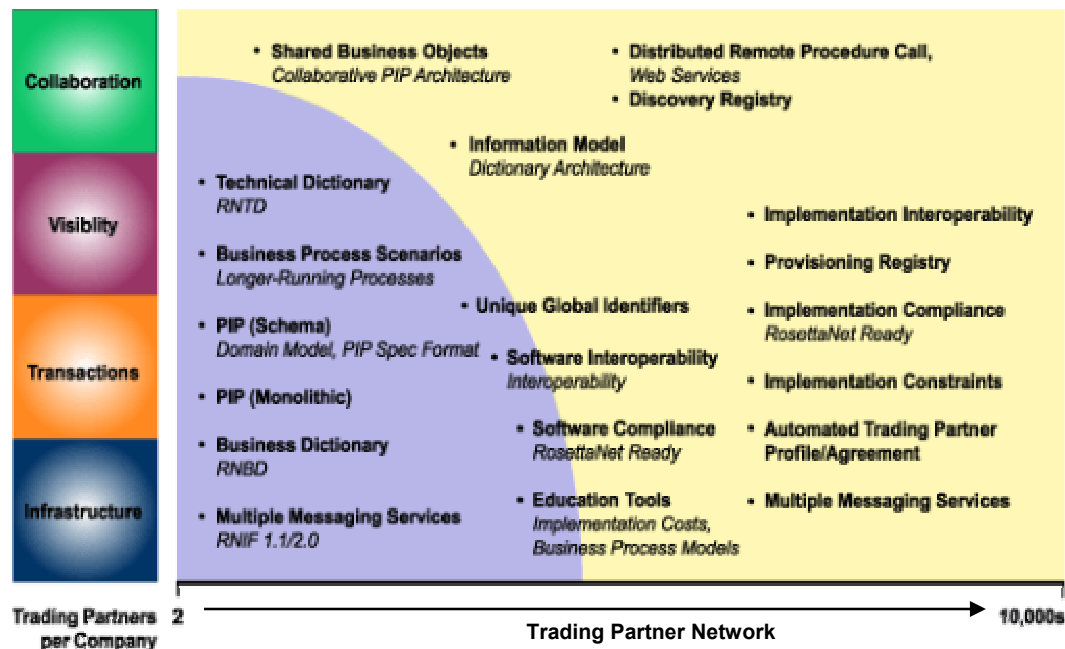


図 9.0  
RosettaNet B2B 戦略的ロードマップ  
2002-2003

### RosettaNet 基盤プログラム (Foundational Programs)

このロードマップの一環として、基盤プログラム (Foundational Program) という名前の標準インフラ・コンポーネントがいくつか立ち上げられました。例えば、新規拡張された PIP 仕様フォーマットが会員により承認されました。このフォーマットでは、PIP 表記とメッセージ交換制御を XML ファイルで表現するために、PIP メッセージ仕様と World Wide Web Consortium (W3C) の XML-Schema と Business Process Specification Schema (BPSS) の ebXML のバイナリ・コラボレーション部分を使います。PIP 仕様は、今後さらに機械で処理出来るようになるので、より迅速に導入でき、様々な変換を大幅に減らすことができます。

RosettaNet Implementation Framework (RNIF) バージョン 2.0 の仕様は、2002 年にリリースされました。RNIF 2.0 は、頑強で、よく定義された包括的なトランスポート、ルーティング、パッケージング、セキュリティ・インフラ要素であり、RosettaNet ビジネス・プロセスのサポートには不可欠なものです。複数の転送プロトコル、ハブ・ベースのルーティング、アタッチメントなど、RNIF 2.0 で拡張された多くの機能によって、商取引パートナーの採用と実装が促進されるでしょう。

## RosettaNet 技術辞書 (Technical Dictionary) の拡張

RosettaNet Technical Dictionary (RNTD) バージョン 3.0 は、EC (電子部品) セグメントの新しいクラス、特性セット及び各特性項目、IT (情報機器) セグメントの特性セットと各特性項目変更作業、又新たに追加された SM (半導体製造) セグメントのクラスにより、構成されています。これらの更新作業は、RosettaNet が関与している全てのサプライ・チェーン技術辞書のカバー範囲を拡張するだけでなく、全てに対する品質や諸機能も著しく強化しています。さらに RNTD には、International Electrotechnical Commission (IEC) と Japan Electronics and Information Technology Industries Association (JEITA) の ECALS Dictionary の知的所有権を含め、ロイヤリティ・フリー・ライセンスの元で RosettaNet を使うために必要な許可ステートメントも含まれています。

## 準拠と相互運用性による確実な採用

2001 年に RosettaNet サプライ・チェーン・パートナーは、B2B 革新における次の重要なステップとして、相互運用性が重要であることを指摘し、相互運用性ソリューションの競争力のある市場性確保が、あらゆる規模の企業に大量に採用される原動力になるということを明らかにしました。RosettaNet はこれまで、ソフトウェア準拠と相互運用性に重点を置いて作業してきました。

RosettaNet Ready Program は、RNIF や PIP などの RosettaNet 標準への対応状況と準拠度合を、RosettaNet パートナー企業やその他の会社が測定するときの手助けとなる、ソフトウェア製品やサービスを提供します。RosettaNet は、RosettaNet Ready ツール、ドキュメント類、およびソース・コードを無償で公開しています。RosettaNet Ready 開発ライブラリーには、RosettaNet Ready ソース・コード、自己試験キット・アプリケーション、PIP テスト・スクリプト、テスト・スクリプト・ジェネレータ・ツール及び膨大なドキュメント類の他、コミュニティーが開発したコンテンツへのアクセス権も入っています。

RosettaNet に代って Drake Certivo が管理している準拠試験サービスは、ある会社のソフトウェア製品が RosettaNet の e ビジネス・プロセス標準に適合しているかどうかの確認に役立ちます。ソフトウェア準拠試験による主なメリットは、複数の業界プラットフォームに亘る商取引パートナー間の通信とプロセスに整合性を確保できることや、RosettaNet 商取引プラットフォームの配備展開にかかる時間と費用を削減できること等があります。

世界で最初に RosettaNet Ready 準拠バッジを取得したソリューション・プロバイダーとしては、GridNode、Inovis、Sterling Commerce、webMethods 等が挙げられます。

RosettaNet 相互運用性プログラムの一部に、RosettaNet ソフトウェア相互運用性トライアルがあります。これは、文書化、教育、および試験活動を通して、RosettaNet 商取引ネットワーク内のソフトウェアや実装相互運用性の改善を目指すものです。このため RosettaNet ソリューション・プロバイダー・ボードは、Oracle の先導により、コンソーシアムの正式な相互運用性プログラム（Interoperability Program）として立ち上げました。Agilent、Arrow、Cisco、Intel、Motorola 等のメンバー企業を含め、全てのボードにかかわる RosettaNet パートナーが参画して、このプログラムをサポートしました。

このソフトウェア相互運用性トライアルは、Cyclone Commerce、富士通、GridNode、Global eXchange Services、iSoft、Oracle、Sterling Commerce、TIBCO Software、Vitria、webMethods の 10 社の RosettaNet Implementation Framework (RNIF) に準拠した接続性ソフトウェアの試験を行いました。この試験は、準拠と相互運用性の試験を専門とする中立のサード・パーティーである Drake Certivo 社により実施されました。

## RosettaNet 実装ガイド

早期実装、特にマイルストーン・プログラム・チームの経験を共有することによって、実装時間を短縮し、このプロセス・シナリオ採用が促進されるように、RosettaNet 実装ガイド（RosettaNet Implementation Guide: RIG）が作成されました。

実装ガイドには、具体的なビジネス・シナリオ、使用法、得られた経験などの説明があります。さらにマッピング・ツール（Mapping Tool）も入っており、仕様ガイドラインに沿った適切なフォーマットや各データ・フィールドに記入できる情報のタイプ等について、後続の商取引パートナーを支援出来るようになっています。

現在、次の分野の RIG を入手できます。

- ・ 製品情報
- ・ 受発注管理
- ・ ロジスティクス
- ・ 財務
- ・ 協同需要予測
- ・ マーケティング
- ・ 製造

## 標準化の統合

ここ 2～3 年の間に、e-business XML Initiative (ebXML) や Web Services Interoperability Organization (WS-I) などの世界的な XML ベース標準への取り組みが数多く開始されており、これらは開発や承認の中の色々な段階にあります。これらの団体は、業界を特定されているわけではありません。RosettaNet は、e ビジネス標準化分野でのリーダーとしての役割と、蓄積された本番実装の経験を活用して、市場の多様な B2B 団体にまつわる混乱を減らして明確化することを目指しています。RosettaNet は、補完的なゴールを持つ B2B 標準グループと緊密に連携することにより、最も広く受け入れられる補完的水平標準団体に向けてサポート、統合、移行していきます。

RosettaNet は、そのような統合化に向けたアプローチは両団体にとって、サプライ・チェーン相互運用性の向上につながるものと確信しています。また、このアプローチにより、これらの商取引パートナー・ネットワーク内で使われる様々なビジネス・モデルばかりでなく、ハイテク・サプライ・チェーンや、テレコミュニケーションなど隣接の垂直サプライ・チェーン固有のビジネス・プロセス要件に、RosettaNet のリソースを集中できるようになると確信しています。RosettaNet は、一般に広く受け入れられている水平標準がある場合は、それらと互換性を保てるようにしていきます。一般に受け入れられる水平コンポーネントがない領域では、RosettaNet は、ハイテク業界向けの統合型 XML ベース・ビジネス・プロセス・ソリューションの構築に向けて、そのような領域に引き続きリソースを投入していきます。

企業は、より広く受け入れられている相互運用可能な B2B 標準を使うと、ソリューションや実装の費用効果を高めることができます。RosettaNet は、統合化戦略の結果として、世界中の中小企業が低コストでの実装やソリューションを使えるようにすることを目指しています。

## 2003 年度に向けて

RosettaNet は、マイルストーン・プログラムに定義されているように PIP を使った e ビジネス・シナリオの実装に焦点を置いて前進し続けます。販売報告 (Sales Reporting)、支払 (Payment)、環境物質情報 (Materials Composition) 等の新しい e ビジネス・プロセス分野のいくつかのプログラムは、提案段階から正式な立ち上げ段階へ移行しています。

RosettaNet 標準は、商取引パートナー・コミュニティへさらに深く順調に普及しています。例えば、3 年目の Order Management in Japan のプログラムでは、PIP とパートナーに関して、2003 年度中の適用に向けたさらなる高い目標が設定されています。最近マレーシアで開催された “Application Solution Provider (ASP) Interoperability Festival” で、ハブを介した RosettaNet 標準の重要性が実演されました。このハブを使う方式は、中小企業が他の商取引パートナーと接続する 1 つの方式です。

地域的には、中国で活動している多数の多国籍企業内で、より公式な活動が実施されることにより、中国での普及が予想されます。

その他の業界による RosettaNet 採用に関しても、テレコミュニケーション業界で RosettaNet Telecommunications Council が組織されるなど、順調に進展しています。同様の Logistics Council を組織化することも、複数のロジスティクス会社によって検討されています。

UCC 合併により RosettaNet アーキテクチャは、RosettaNet メンバのニーズやコンシューマ・エレクトロニクスや航空宇宙産業など隣接の垂直マーケットのニーズを反映するようになります。RosettaNet は、複数の業界に適用できるような新しい機能を備えた標準を開発するために、OASIS などの組織と緊密に連携しております。

このコミュニティや個々の商取引パートナー・ネットワークが成長するにつれて、迅速に提供でき、容易に実装できる実装ツールが最も重要になります。RosettaNet は、この分野のツール開発に重点を置きます。さらに RosettaNet は、既存の RosettaNet Ready Program 試験サービスを拡張し、アジア・ベースのパートナーや中小企業向けに実行可能なバッチ試験モデルを 2003 年度中に提供する予定です。これによって、ローカライズされたソフトウェア準拠ソリューションは、RosettaNet を確実に簡単に実装できるようになります。

## Board の情報

### RosettaNet Executive Board

#### **Amkor Technology**

Bill White  
Senior Vice President, ICS

#### **Cisco Systems**

James Miller  
Vice President  
Supply Chain Management

#### **IBM**

Peter Williams  
Director

#### **Intel Corporation**

Charles Goodwin  
Director  
Private e-Marketplace Office

#### **Intel Corporation**


Craig Brown  
Vice President  
Technology & Manufacturing Group and  
Director of Materials Strategic Programs Operation

#### **National Semiconductor**

Ulrich Seif  
CIO & Vice President  
Information Systems

#### **Nokia**

Jean-François Baril  
Senior Vice President  
Sourcing and Procurement



## Board の情報

### RosettaNet Executive Board *(cont.)*

#### **RosettaNet**

Jennifer Hamilton  
CEO

#### **SAP**

Christine Clevenger  
Vice President  
SAP High Tech IBU

#### **Sony**

Yoshihiro Taya  
Corporate Senior Vice President

#### **Sun Microsystems**

Lew Tucker  
Vice President  
Internet Services

#### **Uniform Code Council, Inc.**

Thomas Rittenhouse  
CEO

## Board の情報

### 2002 Board Member Companies

Agere Systems	Molex
Agilent Technologies	Motorola
Air Products & Chemicals	National Semiconductor
Amkor Technology	NEC
Applied Materials	Nokia
Arrow Electronics	Oracle
ASE	Philips Semiconductors
Avnet	QPR
AVX	Samsung Electronics
Chartered Semiconductor Manufacturing	SAP
Cisco Systems	Shin-Etsu Handotai
CommerceRoute	Shinko Electric Industries
Drake Certivo	Siemens AG
Dun & Bradstreet	Solectron
E2open	Sony
EDS	SPIIL
Federal Express	Sterling Commerce
Fujitsu Limited	STMicroelectronics
Future Electronics	Sumitomo Bakelite
GSA	Sumitomo Mitsubishi Silicon
Hitachi Semiconductor	Sun Microsystems
HP	Texas Instruments
i2 Technologies	TIBCO Software
IBM	TOK
Infineon Technologies	Tokyo Electron Limited
Ingram Micro	Toppan Printing
Inovis	Toshiba
Intel	Trilogy
IONA Technologies	TSMC
JSR	Tyco Electronics
KEMET	UMC
Manugistics	UPS Logistics
Mentor Graphics	Viacore
Micron Technology	webMethods
Microsoft	Xilinx

## スタッフ情報

---

**Rosettanet** で推進中のものの多くが成功しているのは、組織の積極的なチーム・アプローチやユニークな要員モデルのおかげであると考えられます。**RosettaNet** コンソーシアムは約 23 名の従業員と様々なメンバー企業を代表する 100 人以上のビジネスや技術のプロの出向者から構成されています。集団としてこれらの関わりあっている人達は、仮想チーム環境で世界中を相手に働くと同様に、机を並べて働いています。このわくわくする躍動的な仕事場は、創造性を活気付け、最善の事例の普及を促している一方で、それはまたボード主導のゴールへの健全なるフォーカスと定義された成果物のさらに優れた執行を確実なものとする助けとなっています。

## Leadership Team

### **SY Foong**

*(on-loan from Intel)*

Vice President  
Asia Region

### **David Kraemer**

Vice President  
Industry Development & Americas Region

### **Mike Meranda**

Vice President  
Industry Development & EMEA Region (acting)

### **Mary Schoonmaker**

Vice President  
Global Marketing & Industry Development

### **Paul Tearnen**

Vice President  
Standards Management

### **Donald Tsusaki**

*(on-loan from Siemens)*

Executive Director  
Telecommunications Council

## スタッフ情報

---

### Senior Staff

**Young Bai**

*(on-loan from Intel)*

Director

Partner Relations China

**Derek Coleman**

*(on-loan from HP)*

Chief Technical Officer

**Christopher Chan**

Director

RosettaNet Singapore

**Karen Cox**

Senior Director

Milestone Programs

**Suresh Damodaran**

*(on-loan from Sterling  
Commerce)*

Chief Architect and Chief  
Technical Officer

**Sang Mi Choi**

*(on loan from Electronic  
Industries Association of  
Korea)*

Director

RosettaNet Korea

**Chung-Ping Liang**

*(on-loan from Institute of  
Industry Information)*

Director

RosettaNet Taiwan

**Yoshihiko Miura**

Senior Director

RosettaNet Japan

**Charles Popick**

Director

Standards Development

**Laura Radloff**

Senior Director

Foundational Programs

**Lynda Yana**

Director

Global Marketing &  
Communications

**Cielito Zulaybar**

*(on-loan from Intel)*

Executive Director

RosettaNet Philippines

**For more information, visit the RosettaNet website at [www.rosettanet.org](http://www.rosettanet.org).**

*© Copyright RosettaNet 2003. RosettaNet, Partner Interface Process, PIP and the RosettaNet logo are trademarks or registered trademarks of "RosettaNet," a non-profit organization. All Rights Reserved*